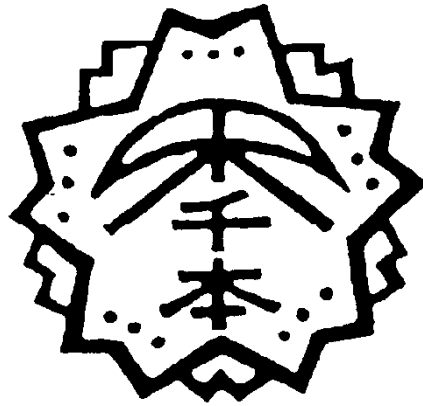


令和8年度

「運営に関する計画」



大阪市立千本小学校

令和8年4月

1 学校運営の中期目標

社会に出て、夢をつかむことができる子どもを育てる

【 設定理由 】

アメリカの大学教授であるキャシー・デビッドソン氏によると、「2011年度にアメリカの小学校に入学した子どもたちの65%は大学卒業時に、今は存在していない職業に就くだろう。」と予測した。将来、グローバル社会になり、仕事の自動化、AI化、ICT化が加速する。

そんな社会で生き抜くには、自ら主体的に取り組み、指示待ちではなく、自ら解決する能力を持ち、クリエイティブな発想、創造、企画ができることが大切である。同時に、ロボットにはない、人間的感情、優しさ、思いやりに満ちた豊かな心も必要である。つまり、知識や学力に加え、人間関係形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力など基礎的、汎用的な能力を育むとともに、自己肯定感を持ち、自ら新しい将来を切り開こうとチャレンジする力を育まねばならない。

そこで、夢を持ち、その夢の実現に向かって、見通しを持って努力を続けることができる子ども、自他ともに認めあい、支えあうことができる社会を担う子どもを育てることが、未来へとつながる教育と考える。

現状と課題

- 令和7年度校内児童アンケート「学校に行くのは楽しいと思う」に対して、肯定的に回答する児童の割合は89%と、学校を楽しんでいる児童が多いといえる。そのため、不登校児童の在籍比率は改善されてきており、安全・安心な学校づくりが進められている状況である。一方で小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合は78.1%にとどまり、いじめについての正しい認識を高める必要がある。
- 学力・体力面では、少しずつ向上してきている。令和7年度の小学校学力経年調査では、4年、5年の算数が標準化得点で100を超え、体力合計点では対全国比0.98と高い水準となった。今後学力と体力をさらに向上させるためには、協働的な学習や話し合い活動の在り方や改善が求められる。
- 学びを支える教育環境は進められている。学習者用端末の活用率は51.1%となっており端末活用が習慣となってきた。教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合も84%となっており、児童の学びの環境も教職員の働く環境もよりよいものとなっている。端末の利用が進む中で情報モラルを高めていかないといけない。また、依然として持ち帰り業務があるため、見直しを進める必要がある。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和 11 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校に行くのは楽しいと思えますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、90%以上にする。
- 令和 11 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和 11 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、85%以上にする。
- 令和 11 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和 11 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を、80%以上にする。

【その他】

- 令和 11 年度の教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を月20時間以下とする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思えますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を86%以上にする。(R7年度85%)
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を76%以上にする。(R7年度75%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。(R7年度79%)
- 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。
(R7年度86%)

【学びを支える教育環境の充実】

- 小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を70%以上にする。(R7年度67%)

【その他】

- 教員1か月あたりの平均時間外勤務時間を、前年度より1時間削減する。
(R7年度25時間19分)

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立千本小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を86%以上にする。(R7年度85%)</p> <p>○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を76%以上にする。(R7年度75%)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>いじめのない学校づくりに取り組み、誰もが安心して登校できるようにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○各学年でいじめの問題を取り上げた話し合いを学期に1回行う。</p> <p>○全職員で気になる子どもや集団の様子を毎学期2回以上交流する。</p> <p>○ペア学年交流を学期に1回以上行う。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <p>自他のよさを見つけ、認めることができるようにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○ペア学年によるあいさつボランティアの活動を学期に1回行う。</p> <p>○各学年で自尊感情が向上する取り組みを学期に1回行う。</p> <p>○児童会を中心に異学年交流会を年に2回以上行う。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

大阪市立千本小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。(R7年度79%)</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。(R7年度86%)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが安心して自分を表現でき意欲的に学びあえる授業となるように工夫する。 ・様々な人と対話し、交流を通して、学びが深まる授業を展開する。 <p>指標</p> <p>○通常授業時に自分の意見を発表する場やペア・グループワーク活動(1日2回以上)を取り入れる。</p> <p>○交流し、学び合う活動を各学年で年3回以上、行う。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>児童の体力向上に取り組む、進んで運動する子どもを育てる</p> <p>指標</p> <p>○全児童が運動に親しむ機会を年に3回以上行う。</p> <p>○体育科に関する校内研修を年間2回以上行い、授業改善を行う。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

大阪市立千本小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を70%以上にする。 (R7年度67%)</p> <p>【その他】</p> <p>○教員1か月あたりの平均時間外勤務時間を、前年度より1時間削減する。 (R7年度25時間19分)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 学習者用端末の活用を推進する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○1日1回は学習用端末を活用する。 ○心の天気を毎日入力をする。 ○学力向上部会で毎月1回学習者用端末の活用状況を報告する。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 業務の見直しと改善を推進する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○業務内容の見直し、改善を学期に一回報告する。 ○週に1回はゆとりの日を設定する。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

